



▼分散登校で人数を減らした教室で距離を取りながら授業を受ける甲佐小6年生



同校6年生の児童らは、音楽と算数の授業を受け、休校中、学校が作成した授業動画の内容の復習を行いました。

今年度最初の授業を終えて、吉田与絆くん(大町区)は「みんなと一緒に受ける授業はわかりやすい」と笑顔。大西四葉さん(仁田子区)は「みんなに会える学校再開が楽しみです」と話しました。

学校再開への第1歩

町内各小・中学校で段階的に授業を開始

5月20日(水) 町内の各小
学校で分散登校による授業が
始まるなど、6月からの学校
再開に向けた段階的な取り組
みが始まりました。

5月11日(月) から分散登
校を行う甲佐中学校(永瀬善
久校長)に続く取り組み。

甲佐小学校(武永春美校
長)では、児童を居住地域で
2班に分けて午前・午後の分
散登校を実施。教室では、児
童同士の間隔を空ける事で密
集を避けながら、昨年度未修
学分の補充や新学期の学習内
容の履修、休校中の課題など
に取り組みました。

リモート会議で密集を防ごう

ICTを活用した会議システムの運用を開始

4月22日(水) 町内の各小・中学校と町生涯学習センターをネットワークで結んだりリモート会議が実施されました。

リモートでの会議は、ICT(情報通信技術)を推進するため整備を進めていた町教育委員会が、新型コロナウイルス感染症拡大予防対策の一環として初めて開催。

蔵田勇治教育長や町内各校の校長などが参加し、県教育委員会の取り組みや郡内の各教育委員会の動向などの報告が行われ、今後の学校運営などについて意見が交わされました。



▲各学校の校長らとリモートで会議を行う蔵田教育長(左)



◀布マスクの作製手順を確認する支援員ら

布マスクで学校再開を支援

各小・中学校の特別支援教育支援員らが協力

4月20日(月) 甲佐中学校で
町内各小・中学校の特別支援教
育支援員を対象に、布マスク作
製講習会が行われました。

町教育委員会が、休校が続い
ている町内各小・中学校の特別
支援教育支援員などに協力を依
頼。普段、各学校の授業支援を
行う各支援員が、小学校低学年
用、小学校高学年用、中学生用
の3つのサイズの型紙から布を
切り取り、ミシンで縫い合わせ
て作製しました。

参加者らは、各学校に持ち
帰って作業を進め、全体で約
900枚を作製。出来上がった
布マスクは、各校の登校日に児
童らに配布されました。

青少年の健全な育成を図る

青少年健全育成町民会議理事会

5月19日（火）町生涯学習センターで、甲佐町青少年健全育成町民会議の令和2年度理事会が開催されました。

同会議（奥名克美会長）は、本町の未来を担う青少年の健全な育成を図ることを目的に、昭和60年に発足。キャンプなどの体験活動や教育パトロールなどの青少年育成活動に取り組んでいます。

理事会では、令和元年度事業報告や役員改選、令和2年度の事業計画について意見交換が行われました。



▲理事会で関係者を前にあいさつする奥名会長



▲バケツに分けた稚アユを放流する関係者ら

緑川で大きく育て

稚アユ1万6千匹を放流

4月8日（水）中甲橋グリーンパークで、サントリー九州熊本工場（嘉島町）が緑川に稚アユ1万6千匹を放流しました。同社の環境保全活動の一環として、緑川漁業協同組合（小松野太樹組合長職務代理）の協力の下、2005年から甲佐小児童らと毎年行っていました。新型コロナウイルスの感染拡大により、今年度は社員や組合員、町職員らで実施。体長8〜10センチに成長した稚アユをバケツを使って放流しました。

大下勝巳工場長は「子どもたちがいないのは残念ですが、また一緒に放流できるような活動を続けたいです」と話しました。

協力隊でまちづくりを

地域おこし協力隊に委嘱状を交付



▲甲佐高校内に設置されている同高生を対象とした公営塾「あゆみ学舎」の運営を行う冶金さん（左）、越名さん（中）、板敷さん（右）

5月21日（木）甲佐高校に併設された町公営塾「あゆみ学舎」で、同塾の運営を行う甲佐町地域おこし協力隊の3人へ委嘱状が交付されました。

同隊は、地域活性化を目的として、都市住民など地域外の人材を地域の担い手として受け入れ、地域おこしや住民の生活支援などの地域協力活動を行う制度で、平成21年に総務省が創設したものです。

本町では甲佐高校の魅力化事業の一環として同校生徒への教育支援などに取り組む越名智美さん（大分県出身・大町区）、冶金わかなさん（京都府出身・大町区）、板敷悦生さん（鹿児島県出身・上豊内区）の3人に加えて、佐藤直樹さん（愛媛県出身・広瀬区）と岡本久子さん（熊本市出身・上豊内区）が地域の農業振興や情報発信など各自の得意分野を活かしながらそれぞれの活動に取り組まれています。

越名さんは「今年度から就任した2人と共に利用者の生徒たちに寄り添った学習支援をしています。甲佐高生と地域のみなさんをつなぐような取り組みができれば」と今後の抱負を話しました。